

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原駅北口地区まちづくり推進会議				
事務局 (担当課)		相模原駅周辺まちづくり課 電話 042-707-7026 (直通)				
開催日時		令和2年12月21日(月) 19時00分～20時45分				
開催場所		相模原市総合保健医療センター(ウェルネスさがみはら) 7階 視聴覚室				
出席者	委員	14人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	12人(広域交流拠点推進部長、相模原駅周辺まちづくり課長、外10人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	3人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 委員紹介 3 会長選任 4 議題 (1) 相模原駅周辺のまちづくりに関するこれまでの取組について (2) 今後の会議の進め方について (3) その他 5 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

(は委員の発言、 は会長の発言、 は事務局の発言)

1 開会

2 委員紹介

3 会長選任

互選により、会長として佐藤知正委員が選任された。また、会長の指名により、職務代理者として大沢昌玄委員が選任された。

4 議題

(1) 相模原駅周辺のまちづくりに関するこれまでの取組について

事務局より資料 1 に基づき説明を行った。

市民アンケート調査結果が示されているが、市民アンケートと高校生 WEB アンケートの合算か。全体の傾向をつかむという点では、一括して集計することも重要であるが、次世代のニーズを把握するという点で、高校生の意見は非常に重要と考える。分けて示してもらえると検討の参考になる。

本日の資料は合算したものである。高校生アンケートには、教職員の意見も含まれているが、若い世代の意見がわかるように次回の会議で示す。

(2) 今後の会議の進め方について

事務局より資料 2 に基づき説明を行った。

土地利用方針案は、何年先をイメージして検討すればよいか。

対象地は現在国有地となっており、国有財産審議会を経て土地活用できるようになる。現時点では、令和 4 年度に国有財産審議会にて了承いただき、その後、都市計画の手続き等を進めることとなる。詳細なスケジュールは確定していないが、概ね 10 年ほど先のことということで検討していただきたい。

事例として紹介した二葉の里地区は、まちづくり基本計画を平成 20 年に策定しており、現在、駅前に建物が建ち並んできている状況である。

土地利用方針案は、議決案件になるのか。

パブリックコメントを実施する前に議会説明を行う機会があるが、議決案件ではない。

今後、民間ヒアリングを実施するのであれば、近隣市町へのヒアリングも行ってはどうか。本地区を広域交流拠点と考えると、多摩地域との連携が必要と考える。

提案内容について、反映する方向で検討する。

(3) その他

相模原駅北口地区に関する将来イメージについて、委員から意見を伺った。

広域的な視点と狭い範囲の視点、両方で考えることが必要である。小田急多摩線の延伸により新宿と直結になることから、今と異なるポテンシャルを有することになり、広域的な視点で本地区を捉える必要がある。一方、将来的には、補給廠が全面返還された際に200haの開発を行うには、周辺の交通基盤が脆弱なため、土地利用と交通は一体で考える必要がある。

まちづくりの展開を考える際に、10年という時間軸はわかりやすい。新型コロナウイルス感染症により、変化しているライフスタイルを捉え、また、リニア中央新幹線開通などを踏まえるとよいタイミングである。本地区はリニアやJAXAをつなげる役割を果たせるのではないかと考えている。

200haのうちの15haの開発と考えると、新しいまちのあり方を考える必要がある。これだけ広大な土地活用を図るということは、日本でも数少ないのではないかと。

新型コロナウイルス感染症については、密を避けるというだけでなく、人々の心持ち、人々のあり方に着目し、計画に反映する必要がある。

10年後は、デジタルネイティブ世代が社会の中心となる。この世代は多様性を受け入れ、共生、共創できる世代であり、この世代がどのようにまちをつくっていくのかを想定して考えることが必要である。また、この世代は、サステナブルへの意識が高いので、その辺りの要素もまちのあり方としては重要かと考える。新しいまちのあり方を日本に提示するプロジェクトになるとよい。

自分自身が住みたいと思えるまちを作りたい。市民が誇りを持つ愛着のあるまちづくりを検討したいと考えている。

本地区は鉄道や高速道路も充実しており、広域交流拠点として好立地な地域

である。本地区の開発は、国内外から注目されると考えると、特徴のある地域になるとよい。相模原に行きたい、行ってみたいという、人々が集うにぎわいのあるまちづくりを目指してクローズアップされるとよい。

産学官民が一体となる必要がある。

相模原スポーツ・レクリエーションパークの整備も進んでおり、隣接する本地区のまちづくりへの関心も高まると感じている。

従来検討を重ねた内容の中には、行政機能や文化機能、商業機能、交流機能があるが、これからは教育関係の機能が非常に重要になると考えている。若い世代や地域の意見も聞きながら、議論を進めて行ければよい。

道路網の整備も大きな課題となる。

コロナ禍のなかでも、実際に人に会うという交流の形が失われないようなまちづくりを展開できるとよい。相模原市で生きているという実感を得るプロセスとしてシビックプライドを醸成していくことが、住み続けられるまちに繋がるのではないか。

JAXAの立地やロボット等のデジタル産業など、本市の強みを生かしながら産業振興拠点となるイメージを図ることが重要になると考える。10年後を考えると、AI・IoT・ロボットなどの技術が新しいビジネス、サービスを生み出し、防災や環境対策などの都市が抱える課題解決にも繋がると考える。

相模原市は平坦で安定した地盤であるため、首都圏南西部の広域防災拠点機能を担うまちづくりを行うことも重要と考える。現在、首都圏における国の広域防災拠点は海沿いにあり、内陸にはないため、このような機能を持たせることもよいのではないか。市民としても、そのような機能があると安心できると考える。

子育て世代が、子育て環境のよい厚木市や大和市へ流出していると感じている。その理由の一つは、市内の子育て支援施設が点在してしまっていることにある。子育て支援が集約された拠点として、子育てしやすいまちづくりを実現できるとよい。

相模原市は交通利便性が高く通勤しやすいということで、研究者や従業員が集まりやすい。他の地域の方の意見を調査の中で把握できるとよい。

他都市と比較すると、相模原市にはシンボリックなものがない。タワーのような形態によるものではなく、市民をはじめとした人々の拠り所になるものがあるとよい。

企業の声を聞いていると、新型コロナウイルス感染症の流行を受け、考え方が変化してきているので、それらを踏まえた検討が必要である。防災面への対応も必要である。

観光まちづくりとして、JAXAやリニア中央新幹線を生かすことができるとよい。都市計画は、様々な事業者が関わることもあり、足並みが揃わないと事業が長期化することもある。

本地区の広大な土地利用は、相模原市のみでなく日本としてどうしていくかを考えることが重要である。事例の組み合わせということではなく、この土地でしかできないことを探し出し、新しいことを生み出していけるとよい。市にとってよいことだけでなく、世界によいものをつくれれば、市民のためにもよいものになると考える。

高齢者も楽しめるような商業施設や、子や孫が遊びに来て楽しいと思えるような施設ができるとよい。

本地区周辺の住民は、道路の不足や補給廠による地域の分断など、様々な我慢をしてきた。今回の新しいまちづくりについて、再び地域住民が我慢をするようなことにならないようにしてほしい。

市民目線で地域コミュニティやまちづくり全体をデザインしていくことが必要である。日本全体で少子化の問題等があるが、その中で、本地区で何ができるかということを考えている。今後、この会議で議論していく中で、実現可能性について考えていきたい。

企業の支店や製造業が多くあるまちの要素を生かせるとよい。行政の意見、市民の意見を織り交ぜて一緒に創りあげる過程が重要である。

まちを構成するコトとモノという観点から、コトづくりとして、社会参加によって医療や福祉などのサービス提供を連続的、統合的に受けられると、現代人は安心して経済活動を行うことができる。

モノづくりとして、日本は物作り大国と言われているが、大量生産によりモノが飽和している。その中で、個に適合したモノが求められていると感じている。個を生かせるようなモノづくりを考え、本地区から世界に発信していけるとよい。本地区のまちづくりに、市民と市が本気で取り組むことが大事である。

相模原駅北口地区まちづくり推進会議 委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	大沢 昌玄	日本大学 理工学部 土木工学科 教授	職務代理者	出席
2	佐藤 知正	東京大学 大学院 新領域創成科学研究科 名誉教授	会 長	出席
3	高橋 聡	内閣官房 地域活性化伝道師 (カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 公共サービス企画営業事業本部 事業本部長)		出席
4	牧瀬 稔	関東学院大学 法学部 地域創生学科 准教授		出席
5	安藤 孝洋	相模原駅周辺まちづくり推進連絡協議会 副会長		出席
6	小林 美羽	公益社団法人 相模原・町田大学地域コンソーシアム さがまち学生 Club 学生メンバー		出席
7	下河原 英樹	相模原商工会議所 総務部長		出席
8	中島 隆子	子育て親育ち応援団 W i t h . c f c 代表		出席
9	森 道洋	公益社団法人 相模原青年会議所 地区大会交流委員会 委員長		欠席
10	安藤 重夫	株式会社 さがみはら産業創造センター 取締役 事業創造部長		出席
11	池田 亨	株式会社 横浜銀行 相模原駅前支店長		出席
12	井上 康	株式会社 J T B 相模原支店長		出席
13	赤瀬 公男	公募委員		出席
14	川口 久美	公募委員		出席
15	細谷 巧	公募委員		出席